

1 児童の実態

(1) 学習状況調査結果の推移

R2入学現 6年生	国語		算数		理科
	5年時	6年時	5年時	6年時	6年時
	県	全国	県	全国	全国
平均正答率	63.7	64.0	63.9	57.0	63.0
R7正答率の県比	1.05	1.04	1.05	1.06	1.15
R7正答率の全国比		0.96		0.98	1.10

◎5年時は佐賀県学習状況調査、6年時は全国学習状況調査の推移。

◎上段は本校の平均正答率、下段は県平均を1としての比較。

◎「令和7年正答率の全国比」は全国平均を1としての比較。

(2) 学習状況調査・意識調査から読み取れる実態

国語、算数は、全国の正答率を少し下回っている。情報を選択したり、関係づけたりする問題で落ち込みが見られる。

理科は全国の正答率を上回っていて、学力が定着していると言える。

意識調査では、タブレット端末を使って学習する時間が多い反面、読書にかける時間が少ないことが分かった。

2 改善に向けた具体的な取組

(1) 授業づくり、指導方法の改善・充実のための重点取組

授業では、特に国語や算数で、単元の学習内容に関係した基礎基本の問題に取り組ませ、既習事項の定着を図る。

どの教科でも、授業の振り返りの時間を設け、学習してわかったことや友達のよかった点、これから学習したいことなどを書かせることで、学習の定着を図る。

情報活用を目的として、文章から必要な情報を抜き出して要約させたり、自分の意見の根拠を示させたりすることや、グラフや表から読み取ったことを友達に説明することなどに取り組む。

(2) (授業以外) 児童・生徒の課題改善のための重点取組

登校後、全校で読書に取り組み、毎朝の読書活動を充実させる。貸出数50冊ごとに多読者賞を与え、読書への意欲を喚起する。家庭でも本を読む習慣を定着させる。読書をする中で、わからない単語や事柄が出てきた場合、意味や内容を調べて、自学としてノートなどにまとめさせる。

家庭学習の内容、方法を工夫して、家庭学習の質の向上を図る。児童が学習したいことや分量などを選択できるようにして、意欲的に取り組めるようにする。